地域資源活用部門

環境と生活が調和するまちづくり

ＮＰＯ法人　羽曳が丘Ｅ＆Ｌ　理事　　〇西田　政弘
大阪府立大学看護学部地域看護学教員　〇根来　佐由美
大阪府立大学看護学部学生　〇音村　有美

１．活動方針・目的

昭和３７年、羽曳が丘の住宅開発が開始されました。昭和３９年には羽曳が丘の各町会が、羽曳野市と公園・バス停・集会所などの設置を協議する羽曳が丘町会連合会を組織しました。現在､羽曳が丘では、１８町会・戸数３，８００戸・人口１１，２００人・町会世帯加入率は９９％になり、羽曳が丘町会連合会を基盤にして住民活動を継続・実践しています。

平成１６年には､羽曳が丘町会連合会と地域団体が集まって､｢ＮＰＯ法人 羽曳が丘Ｅ＆Ｌ」（ＥはＥｃｏｌｏｇｙ・ＬはＬｉｆｅ）を設立しました。当法人は行政機関へ住民参加のまちづくりの提案と、環境と生活が調和する住みよいまちづくりの実践が目的です。

２．活動内容

①ＮＰＯ法人　羽曳が丘Ｅ＆Ｌの活動内容

「環　　境　　部」自然環境保全・資源リサイクル・地域交流行事主催と参画
「生　　活　　部」高齢者へ惣菜の調理宅配・交流サロン・大阪府立大学学生の実習支援
「ビオトープ部」ビオトープ整備・ビオトープフェスタ開催・幼稚園と小学校への出前教室
「管　　理　　部」事務会計・集会所管理・広報紙発行・印刷事業

②大阪府立大学との連携活動

当法人は近隣の大阪府立大学看護学部の学生や教員と連携活動を実践しています。 地域スタッフが大学の授業に参加して地域活動の説明会を行い、学生や教員が地域拠点で実習・測定会・地域調査などを実施しています。地域と大学がそれぞれの特徴を活かすことで、環境と生活と保健の視点が融合され、お互いの相乗効果につながっています。

３．他の活動団体の参考になる事例

①自然環境拠点のビオトープ公園にて、一人住まいの高齢者５８人参加の高齢者昼食会を開催しました。多数の高齢者から嬉しい感想文が届きました。感想文は当法人の目的とする環境と生活の調和でした。屋内施設でなく野外施設では思いがけない発見や効果があります。

②当法人の会員は環境と生活に関わる活動を実践しています。大阪府立大学のアンケート調査で会員１１５名の回答がありました。会員が地域活動に参加することにより、健康維持と地域貢献の理念を共有していることを知りました。会員は日常の活動や交流で地域活動参加の理念などは会話しません。アンケート調査の回答で知った会員の理念共有でした。

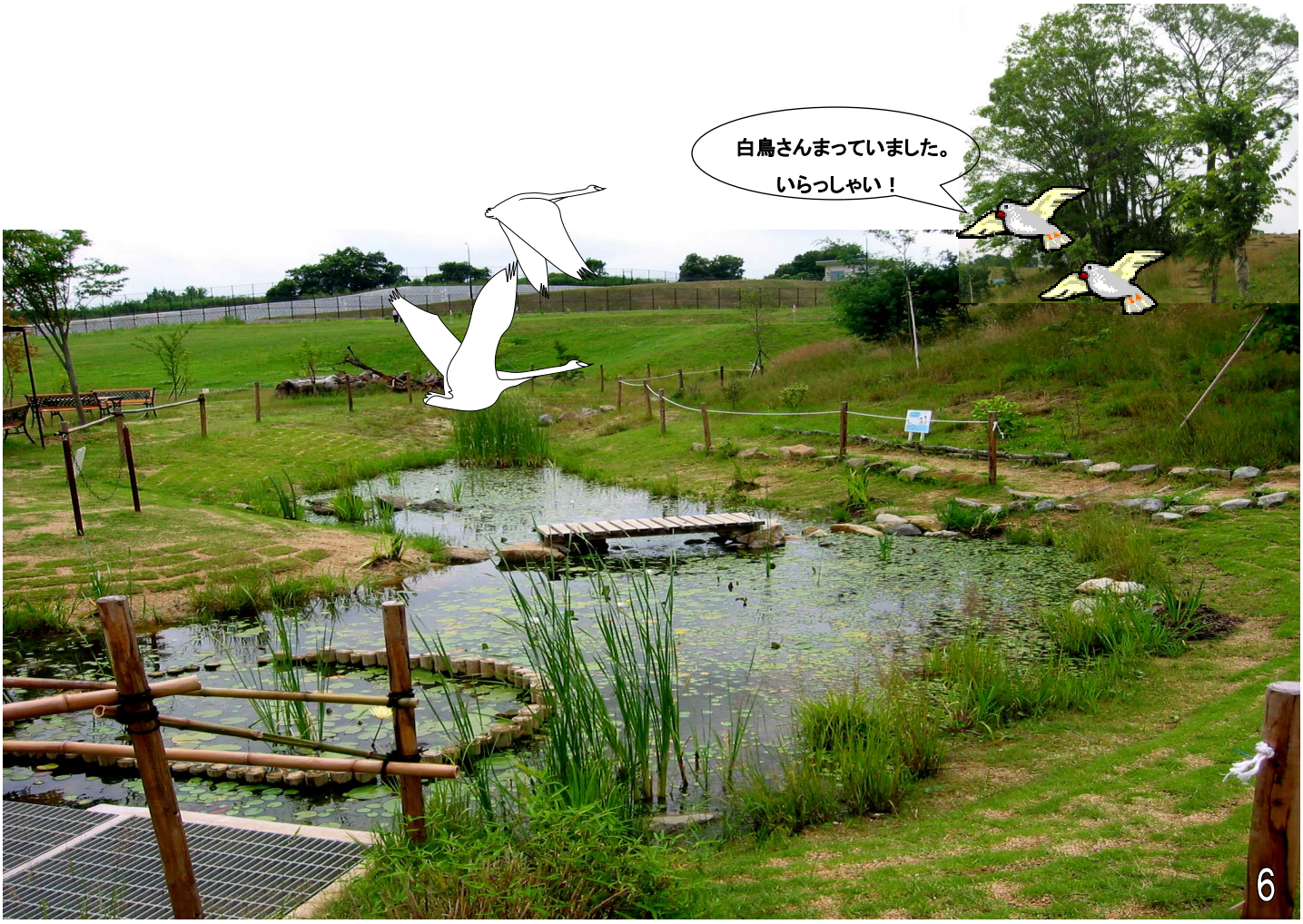
③当法人では複数事業の収支を循環･調整･継続しています。単独事業の収支調整は難しいです。複数行事と複数団体の参加・出演・出店により住民参加者が増加しています。地域行事・地域交流などの住民参加者数の増加は地域資源の活用と地域貢献活動の評価につながります。

４.今後の課題

①当法人では羽曳が丘モモプラザ（公民館）の指定管理者制度への申請と、羽曳野市民活動センター設立の協議に長期参画しましたが実現していません。これらは行政機関が住民と行政の協働事業として推進すれば、住民が認識する新しい住民参加のまちづくりの第一歩になります。行政は住民参加の協働事業を積極的に情報発信・支援・実施すべきと思います。

②近年の日本経済の低下･少子高齢化･若い世代の参画減少などが複合的課題と言われています。これらの課題は地域拠点・多世代交流・地域力により解決し、多世代参加の住民が健康生活維持と地域貢献を共有することが新しい時代の課題です。

日本武尊白鳥陵
羽 曳 野 の「白 鳥 伝 説」
その昔、日本武尊が白鳥になって、美しい 羽 を 曳 いて 野 を
飛んだ姿から「羽 曳 野」という地名が生まれました。
平成10年撮影


白鳥さんまっていました。
いらっしゃい！

環境と生活が調和するまちづくり

健康生活 ⟷ 住民の理念共有 ⟷ 地域貢献

地域愛着拠点
多世代間交流

住民参加活動
住民提案活動

明るく住みよいまちづくり

日本経済低迷 ⟷ 地域課題解決 ⟷ 少子高齢化

複数事業・循環・運営

NPO法人
羽曳が丘E&L

環境部	生活部	ビオトープC	管理部
①まちづくり活動 ②自然環境保全 ③アルミ缶回収	①惣菜の調理 ②惣菜の宅配 ③交流サロン	①フェスタ開催 ②環境出前教室 ③ビオトープ整備	①事務・会計 ②広報事業 ③編集・印刷

会員165名　賛助会員18社

アルミ缶回収

集会所管理

福祉講和　府立大へ

交流ツアー/伯耆町へ

惣菜の調理

惣菜の宅配

交流サロン
府大学生ボランティア

地域印刷事業

住民参加・ビオトープつくり

花壇つくり指導

出前教室/羽曳が丘小

高齢者昼食会

峰塚中吹奏学部

18年3月　ビオトープ　整備保全開始

22年3月　ビオトープ　開園～住宅建設

24年3月　新ビオトープ　整備保全開始

E&L広報掲示板

竹馬製作指導

健康測定会府立大

出店販売

ビオトープ
つくり

2005
これから池つくりが始まります。

2006　池がができました。
メダカの放流しました。

2006　幼稚園児が
森にどんぐりを30本植えました。
どんぐりの森をつくります。

2006　夏になったら水遊び

羽曳が丘幼稚園
はびきのプレーパーク

2006　幼稚園児と花壇をつくりました。

高齢者昼食会開催－環境と生活の調和

初めての野外会食会

　ビオトープで高齢者の野外会食会を開催しました。現地集合・モモプラザ集合・自家用車での集合・で６８名の参加でした。高齢者の方々から感想文を戴きました。スタッフの方から先輩方の感想文を読んで「やりがい」を実感したとのことです。　（民生委員　原田恵美子）

初めての野外会食会

笑い興じて
命の洗濯!

参加者　高齢者　58名
　　スタッフ　22名
　　合　計　80名

森を背景・田舎の風景

生まれ育った田舎の原風景と重なりました。

大阪府立大学　看護学部からの説明

気持ちのよい空気の中で力いっぱいの声を出しました。

外に出るきっかけを作って下さってありがとう

福祉団体のスタッフも楽しく支援

羽曳が丘Ｅ＆Ｌ　からうどんを提供

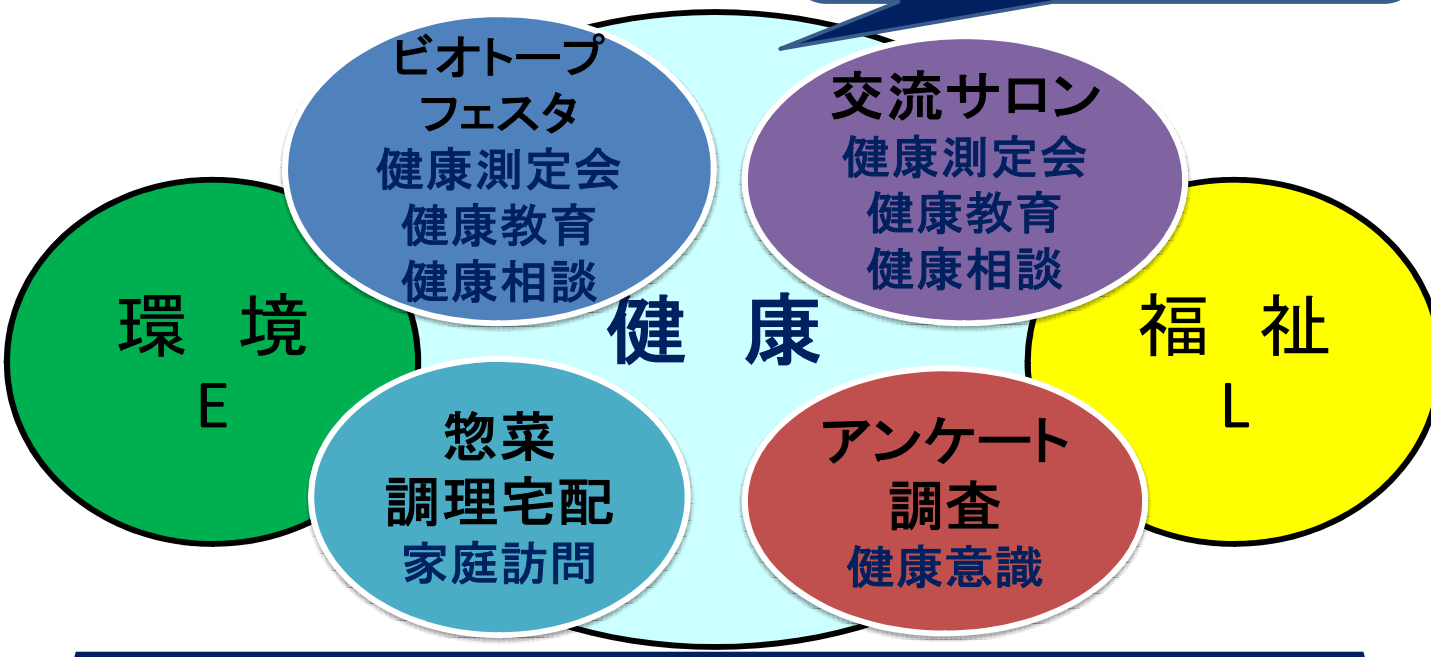
環境と福祉の調和をめざします。

　高齢者の方々の笑顔が素晴らしかった。小さな森ですが自然環境が提供する緑と水と空気の自然の力は格別です。自然環境の素晴らしい拠点での福祉活動は密着すべきです。羽曳が丘 E&L ではこの環境と福祉の調和をめざします。

主　催	羽曳が丘民生児童委員	羽曳野市保健センター
協　賛	羽曳が丘校区福祉委員会	羽曳野市社会福祉協議会
	大阪府立大学看護学部	ＮＰＯ法人　羽曳が丘Ｅ&L

羽曳が丘E&Lと大学による協働活動

健康の視点の重視
健康づくり支援



活動の住民全体への周知
若い世代の活動への参加の促進

交流サロンでの健康相談・講話

ビオトープフェスタでの測定会

学会やサミットでの活動報告

大学での特別授業・・（特別講師としてきていただきました）
学生は皆さんの活動を知り、看護職としてできる保健活動について話し合いました

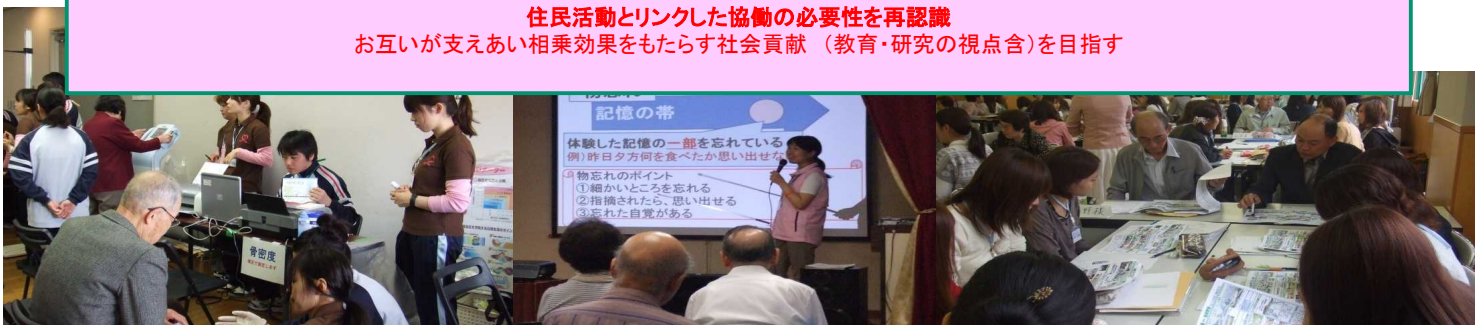
羽曳が丘E&L会員を対象にした社会活動に関する調査

社会活動をしている人の特徴と活動参加や活動継続の要因を明らかにする

課題・問題	理念・効果
若い人達の参画、身体・健康 時間的拘束、参加のきっかけ 性格、関心、価値観	地域での新交流、地域貢献 生きがい、健康維持 閉じこもり防止

自宅 → 近所交流 → 地域交流 → 社会活動

住民活動とリンクした協働の必要性を再認識
お互いが支えあい相乗効果をもたらす社会貢献 （教育・研究の視点含）を目指す



羽曳が丘　住民参加のまちづくり　５０年の歴史

協働とは？

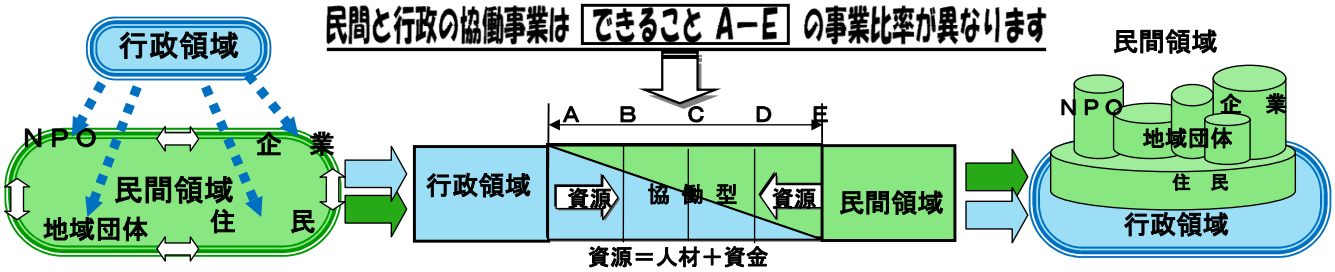
協働は ~~共同~~ ではありません

民間 ⇒ ⇓ ⇐ 行政

民間と行政がそれぞれの できること 特徴 を持ち寄る事業です

連携型 ⇒ - - - ⇒ - - - ⇒ 協働型 ⇒ - - - ⇒ - - - ⇒ 自立協働型

民間と行政の協働事業は できること A－E の事業比率が異なります



民間と行政の協働事業事例・公設民営施設・指定管理者制度

公民館・市民活動センター・スポーツ施設・観光施設・歴史館・図書館

設問 会員が社会活動を継続するための課題

会員が社会活動に参加する調査報告書

健康生活 ⇔ 会員の理念共有 ⇔ 地域貢献

NPO法人 羽曳が丘E＆L 大阪府立大学看護学部

設問 現在の社会活動に参加している思い・理念

課題

若い人達の参画
身体・健康
参加のきっかけ
人間関係

⇒ 社会活動が健康生活・地域貢献へリンク

自宅 ⇒ 近所交流 ⇒ 地域交流 ⇒ 社会活動

個人の生活空間を広げて引きこもり防止

理念共有 ⇒ 理念

地域貢献
健康生活
地域交流
引きこもり防止

効果

アンケート調査：E＆L会員 195名中 114名回答の集計

問題

設問 会員が社会活動に参加する上での問題点

生活支援論 地域Ⅱ演習（大阪府立大学 22.6.1）

健康測定会（羽曳が丘第二集会所 21.11.19）

設問 現在の社会活動に参加することに期待する効果

地域と大学がリンクする健康面をめざして

昨年、羽曳が丘E＆Lでは、大阪府立大学との連携活動で、「地域住民の社会活動参加に関するアンケート調査」を行いました。E＆Lはアルミ缶回収・惣菜の調理宅配・交流サロン・標準弁慶・ビオトープなどの複数事業を実践しています。これらの事業に参画している多くのスタッフから「地域や人の役に立っている」「健康維持と生きがい」との回答がありました。つまり、スタッフの多くが「地域貢献と健康維持」の理念を共有していることを知りました。大阪府立大学からの貴重な設問だったと思います。

また、本年6月には大阪府立大学の学生とスタッフ（E＆L・ゆうゆうクラブ・はびきのプレーパーク）による「生活支援論 地域Ⅱ演習 グループワーク」に参画しました。地域スタッフは学生さんたちに地域交流や地域の社会活動へ参加することが、地域に役立つ活動～社会的健康面につながることを説明しました。

スタッフと学生さんたちの対話の中で、地域と大学がリンクする保健活動のありかたが見えてきました。（羽曳が丘E＆L）

地域スタッフの声

「学生さんからなぜボランティアをしているんですか」？と聞かれました。私はボランティアをしようという気もなく、自然にいろいろのグループに入り、違った考えの人との交流して考えも広がっていった。ボランティアは奉仕活動ではなく自分探しの生きがい活動と思っている。 E&L MH

大学が地域に関心を持つと思っていなかった。学生さんたちが何故地域に奉仕を志すのか？昔から「看護婦さんは優しい」というのが定説です。このあふれる人間性が地域に来て下さったのでしょうか？単なる授業でなく、地域にリンクする新しい保健活動を期待します。 E&L SS

学生さんが熱心に我々に接してくれた。核家族少子高齢化が進み、社会的にも福祉環境が整いつつある今日、若い人も福祉活動への関心が高く、自分がこの年齢頃にこんな事考えたかなーと感じした。こういう意識を友人知人を通して広め、そして一過性でなく、学習に止まらず今の気持ちを大切に社会や地域活動に活かしてほしいです。 E&L TA

生きがいのある生活環境の構築・支援を

私たちはビオトープ・交流サロン・惣菜の宅配などで、羽曳が丘E＆Lの皆様に出会いました。全国でも珍しい自治型福祉NPO団体で活動されているアクティブな姿に関心を持ちました。高齢者が多かったが、お互いが協力し合いながら活き活きと活動されており、私たちは住民の地域力の強さを感じました。アンケート調査では社会参加の方法・参加のきっかけがないと云う問題点や課題もありましたが、私たちは地域の社会参加を拡大させ、住民が生きがいのある生活環境の支援方法を今後検討したいと考えました。

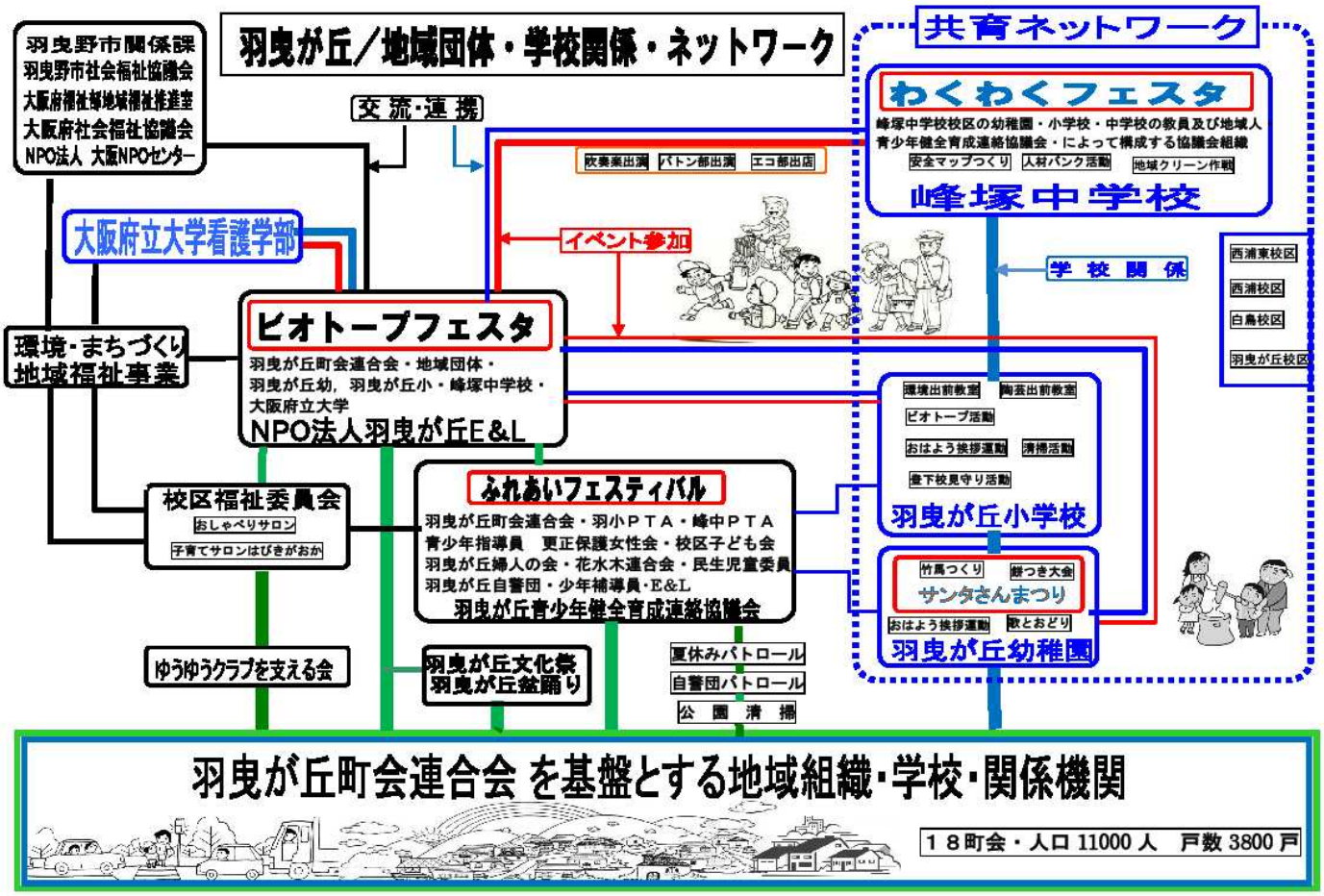
第２回生活支援論演習には２０人の地域スタッフと学生１２０人が、地域とリンクする保健活動について話し合いました。学生の立場からは住民の社会活動を理解した上で地域の看護職（保健師など）としてどのような活動を行うべきか。例えば、交流サロンなどの場で健診のＰＲや、生活習慣病予防のお話をする。サロンなどに出向かれない方への保健師の家庭訪問などについて学生が考える事ができればと思っています。（大阪府立大学 看護学部）

学生の声

Ｅ＆Ｌの皆さんと交流を通じて地域の現状・住民の考えと行動が理解できました。保健師としてどのように地域へアプローチをすべきかと云うヒントも見えました。自分達が保健師になったとしたら自ら地域団体のもとへ出向き、その地域の保健師会員の役割について考えなければと思いました。 学生 YA

Ｇワークで惣菜の調理・宅配について話を聞きました。ボランティアをやってて「しんどい時はないですか？と質問した時に「ボランティアをすることで元気をもらってる」と云われたのが非常に心に残っています。お互いに損得勘定なしに助け合っていくことの素晴らしさを改めて感じました。 学生 SS

Ｅ＆Ｌでは次々に行政に新しい提案をする行動力はすごいなあと感動しました。これからの問題点として、Ｅ＆Ｌ のスタッフの高齢化があげられていたので、若い世代との交流を通してつながりを作っていけるといいなと思います。そのためには私たちで出来ることを、グループワークを通して考えた案などを実現していきたいと思います。 学生 SK



BELIEVE

作詞　作曲　杉本竜一
合唱　エンジェルス　ハーモニー

1. たとえば君が　傷ついて
くじけそうに　なった時は
かならず僕が　そばにいて
ささえてあげるよ　その肩を
世界中の　希望のせて
この地球は まわってる
いま未来の　扉を開けるとき
悲しみや　苦しみが
いつの日か　喜びに変わるだろう
Ｉ believe in future
信じてる

2. もしも誰かが　君のそばで
泣きだしそうに　なった時は
だまって腕をとりながら
いっしょに歩いて　くれるよね
世界中の　やさしさで
この地球を　つつみたい
いま素直な　気持ちになれるなら
憧れや　愛しさが
大空に　はじけて耀るだろう
Ｉ believe in future
信じてる